平成２７年３月　天理市自立支援協議会全体会

平成２７年３月２日（月）午後１時30分～　午後３時３０分

天理市役所　５階　５３３会議室

**＜議題＞**

1. **あいさつ**
2. **障害者相談支援活動報告（平成２６年１１月～平成２７年１月分）**
3. **平成２６年度各専門部会の活動報告**

**４．その他**

**＜連絡先：事務局＞**

**天理市健康福祉部社会福祉課障害福祉係**

**〒６３２－８５５５**

**天理市川原城町６０５**

**ＴＥＬ：0743-63-1001　　ＦＡＸ：0743-63-5378**

**ホームページ　　http://www.city.tenri.nara.jp/**

**１．　はじめに**

**天理市自立支援協議会とは・・・**

**「障害のある人が安心して生活できる地域をつくる」という目標を持つ人達が集って、どう支援していくのかを考える場です。参加者が常に目的意識を持ち実効性のあるものを目指して気持ちを一つにして取り組んでいます。**

**天理市自立支援協議会のしくみ**

**天理市自立支援協議会は、障害のある当事者とさまざまな部門で障害のある人を地域で支える実務関係者で構成され、情報共有や地域課題の解決に向けて話し合っています。**

1. **全体会・・・・課題を提起し、解決に向けての方策を検討し、課題の振り分けと情報の共有を図る。**
2. **運営委員会…全体会の運営、また調整会議で出てきた困難事例・地域課題を**

**課題ごとに内容を議論し、どの部会で解決するかなどを整理する。**

1. **調整会議…相談支援の内容報告、地域課題の発見**
2. **専門部会（必要に応じて随時開催）・・・課題解決に向けて具体的な施策を考える。**
3. **事務局・・・障害者相談支援センター、天理市社会福祉課障害福祉係**

**２　障害者相談支援活動報告（平成２６年１１月～平成２７年１月分）**

* + 1. 支援内容別件数

* 1. ニーズ別件数

1. 障害別延人数

相談傾向について（平成２６年１１月～平成２７年１月）

＜こもれび相談報告＞３月全体会用　報告

新規の相談のケースの特徴としては、20代～50代で、発達障害、気分障害（双極性障害など）圏、神経症（摂食障害など）圏からの相談が主だった。就業・生活支援センターや医療機関からの紹介ケースや両親等家族からの相談、ホームページ等で探して相談に来られる場合が多かった。相談内容としては、「居宅での生活を中心に家族関係・対人関係の難しさから自宅引きこもりがちになっている状況で、今後の生活を考えた時に病状や日中活動について相談したい」という内容など。

新規相談ケースの多くは、精神科自立支援医療や医療費助成制度、精神保健福祉手帳、障害年金、福祉サービスなど、「様々な制度・サービスを利用したことがない」、「どの様に申請・利用できるのか分からない」という方が多い。継続相談のケースでも、「制度・サービス利用、更新の書類が複雑でどうしたら良いかわからない」「どんな書類をいつまでに準備したらいいのか」「制度が利用できなくなってしまうのでは」と混乱や不安が高まり、相談されることが多い。本人・家族にとって分かりやすい情報提供とともに手続きの助言、代行等、細やかな配慮や助言を必要としている。

以上の様に、病気の症状の波や生活のしづらさに関する相談とともに、制度・サービスの手続き支援などのサービス調整、伴っての支援関係機関との連絡調整、年金申請などの権利擁護の支援など、面談や訪問や電話相談など、相談の内容も必要とされる支援も多様化、複雑化している。本人の病状や精神障害の特性に応じた関わりや支援には多くの時間や専門的配慮が必要となるため、一次的な相談支援体制（人的・環境設備面）の拡充が早急に求められると考える。

課題として、相談体制の拡充とともに、既存の福祉サービスでの支援だけでは充足されない、本人や家族の困り感やニーズがある。そもそも相談や支援関係を自らつくっていくことが難しかったり、ＳＯＳを自ら発信しにくいという病気や障害特性を有する精神障害のある方やその家族の多くが、制度・サービスの利用に至る以前に、様々な困惑、困窮を抱え混乱している。安心して相談できる環境や居場所をより当事者・家族の生活圏に届けていくリーチアウト型の支援が求められている。

相談傾向について（平成２６年１１月～平成２７年１月）

入院されるケースへの関わりについて。家族の高齢化に伴い、家族内での支援する力が低下し、入院となっている。これまでであれば、ある程度家族の支援があり、少しの病状の揺れに対応できていたが、家族が介護を受ける身になり、対応が困難になり入院となる。

今後、一定期間入院治療が行われ、退院準備に入った時、継続して地域で生活していくために、家族が担えなくなった支援の代わりに、訪問看護やホームヘルパー、家族との距離を置くためや家族の介護なしに自立した生活を送るために、グループホーム・生活訓練等の福祉サービスの適切な利用が必要と思われる。

家族が元気なうちに、本人への支援が入っているケース（ホームヘルプや就労継続等）では、入院が避けられているのではないか。

相談傾向について（平成２６年１１月～平成２７年１月）

　身体に障害を持っておられる方からの相談が多かった。

年齢の高い当事者に対しては家族の中でなんとかめんどうをみていくという思いが強く、また他の人にまかせる事の不安から家の中だけの生活を続けられている。

家族も高齢になったりとサポートが困難になってからやっと支援を探し始められる場合が多い。

公的サポートの空白期間が長くなるほど新しい環境状況になれる事の難しさが増す。

生まれ育った場所で暮らし続ける為にも早い時期から公的支援につながっておく事が当事者にとっても家族にとっても重要であると考えさせられた。

退院後の支援体制の構築もこの期間多かった。医療と福祉の必要性を強く感じた。

相談傾向について（平成２６年１１月～平成２７年１月）

　体調を崩し、サービス内容等を調整していかないといけないケースが目立った。地域での受け皿が整っていない中で、医療機関は退院を迫ってくるため、早急に在宅生活へ結びつけるために調整を行うものの、本人が在宅へ戻った時にどの程度の支援が必要になってくるのかがなかなかイメージがつきにくく、サービス提供時間や関係者が多ければ多いほど連携を密にして関わる必要もあり、調整にはかなりの時間を要する。医療機関から在宅へ向けて調整していくためには、外泊を何度か重ねて在宅生活のイメージができるような仕組み作り等が必要だと感じる。そのためには、時間も要するため、早期から医療機関との連携を行う必要があり、医療機関にも早期から関われるよう働きかけが必要だと思う。

又、重度の身体に障害がある人（子どもから大人）の入浴支援について相談も増えてきている。自宅で入浴したいと考える人と、自宅でなくどこかの施設で支援を受けて入浴したいと考える人等、入浴に対するニーズが各々違い、その人にあった入浴方法を考えることが増えた。施設で支援を受けて入浴することについては、重度の方の受け入れ先が少なく、なかなかニーズに答えにくいのが現状となっている。夏場はシャワーで汗を流す程度でも、寒くなる季節は身体を温めたいと思う人も多く、ニーズの整理を行いながら、支援者や当事者とも情報を共有しながら入浴の支援に結び付けていければと思う。

知的な障害を持つ方については、就労や通所利用の継続が難しく、体調を崩したりして、引きこもってしまう人や、親が高齢になってきて、親が介護保険のサービスを利用するようになり、介護保険の関係機関と関わることも増えてきている。

又、児童においては、虐待に至らないまでの児童のケースの相談が増えており、福祉のサービス（放課後等デイサービス等）になんとかつながっていれば、それだけで大丈夫というような考えが強まっているように思う。福祉制度にも限度があり、制度だけでなく、障害をもった子どもを地域で支えていく仕組み作りを考える必要があるように思う。最近は、発達障害の子どもも増えており、障害の特性を理解しながら、支援が途切れることなく支える仕組み等も併せて、考えていければと思う。

相談傾向について（平成２６年１１月～平成２７年１月）

　高齢のろう者が、施設に入所をするのではなく地域の中で、「聞こえない」ことを乗り越えて本人が今まで築いてきた、地縁を活かしながら制度をうまく組み込みつつ、どのように豊かに暮らしていけるのかを当事者の意向、介護保険制度、障害福祉制度、家族の意向を調整しながら考えていく必要がある。

　複雑な、介護保険制度等について、どのように理解していただけるのか。

　ご自身の病気等についてどのように理解していただけるのかを考えながら支援していく必要がある。

**３　平成２６年度全体会専門部会の活動報告と平成２６年度活動方針**

* **平成２６年度全体会**

**課題を提起し、解決に向けての方策を検討し、課題の振り分けと情報の共有を図る。**

|  |  |
| --- | --- |
| **平成２６年６月２日（火）　　午後１時３０分～** | **年度当初の方針** |
| **平成２６年１１月１９日（水）午後1時３０分～** | **中間報告** |
| **平成２７年３月２日（月）　 午後１時３０分～** | **年度末の報告** |

**●　運営委員会**

**全体会の運営、また調整会議で出された困難事例・地域課題を課題ごとに内容を議論し、どの部会で解決するかなどを整理する。**

|  |
| --- |
| **平成２７年１月１９日** |

**●　調整会議**

**相談支援の内容報告、地域課題の把握**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **平成２６年１１月２１日** | **１２月２２日** | **１月２６日** | **２月２３日** |

**●専門部会**

**課題解決に向けて具体的な施策を考える。**

**◆こども部会**

|  |  |
| --- | --- |
| **平成２６年１２月１２日** | **平成２７年２月１３日** |

子ども部会活動報告

引き続き「療育支援マップ」の作成を基本に活動。

12月12日の部会では、11月の全体会への出席者が少なかったため、その報告と共に、提案のあった「地域で安心して生活できる仕組みとは」の議題を子ども部会として検討。以下の様な意見が出た。

　・現存する制度体系に当てはめて生活を考える傾向にあり、本人や家族がどう生きたいのか、何が必要なのかを考えられていない。

　・地域で障がいを持つ子どもの事を知ってもらうには親の負担は相当大きい。

　・地域への啓発は大切だがその方法を考えるべき。とらえ方によりさらに誤解を招くこともある。

　・民生委員に協力を依頼できないのか。

　・養護学校でも地域の学校でも、変わらない支援体制が必要。

　・福祉サービスに頼ることが増えたので行き場は見つかったが、地域とのつながりや親子で向き合う時間などが減り、子どもの本当の幸せが何なのか見直す必要がある。

　２月13日の部会では、主に行政機関以外の支援、連携について協議した。

・福祉事業所や保育所・・必要に応じて医療機関（訓練）や他の事業所とは連携した支援ができているが、学校、保護者との共通理解が難しいケースがある。

・学校教育課・・ステージが変わるたびに支援が途切れないよう教育支援計画の様式を統一する予定。

共通して出た意見は、各支援計画書が様式、内容などバラバラで実際の利用に結びつ

きづらいとの事。部会としてできることがあるのか今後も検討していく。

* **権利擁護部会**

**権利侵害検討委員会**

|  |
| --- |
| **平成２７年１月１４日** |

権利擁護部会活動報告

１．「障害」に対する意識調査について（アンケート）の集計結果について

・26年10月25日わくわくショップで実施したアンケートを集計した結果、

A実施場所が駅前広場だった　　実施時期が天理教秋季大祭だった等のことから

　45名の内半数以上の26名が市外の人だった

B回答者の半数以上　27名が60歳以上の人だった

２．調査の様子について

・若い人は立ち止まってくれない

・年配者はアンケートを書きながら、話をしたいようだ

・月次祭に参加している人が多く、法被を着ている人はできるだけ避けたがそれでも、月次祭で天理市を訪れた他市の人が多かったようだ

３．今後の調査について

・アンケートの母数を増やす方法として、「天理市人権教育推進協議会」が行っている地区別懇談会を利用したらどうか。

→　地区懇へ検討委員会のメンバーが出向いて、主旨説明とお願い、回収まで含めてしてもらえるのであればOK（市本氏）

→　地区懇の利用は「社会福祉課」から「人権センター」へ依頼する流れで行う必要があるので、事務局から上司の許可を必要となるので、返事は待ってほしい。

上司の許可が下りて、地区懇が利用できることになれば、検討委員会を招集する。

４．来年度の権利擁護部会と権利侵害検討委員会について

・権利擁護部会が現在、支援者対象の「あじさいの会」のみの活動となっていること、

権利侵害検討委員会と権利擁護部会が分かりにくいという声があること

等の理由から、新年度に部会と委員会を統合したいと事務局から提案し、承認を得た。

・新たな部会にすることで、「権利擁護」や「権利侵害」という固い、難しい等のイメージの部会名ではなく、わかりやすく、イメージしやすい部会名を新たに考える

（次回検討委員会までに案を持ち寄る）

・部会と委員会を統合した後、部会の当初行っていた「虐待」について再度検討していきたい

「虐待防止」に視点をおいてどのような活動ができるのかもう一度検討するために、現在の天理市の虐待の実態を教えてほしい。

→個別の事案について詳細を詳らかにすることはできないが、傾向等出せる部分については出す。

* **精神障害者部会**

**精神障害についての理解啓発活動を話し合う**

|  |
| --- |
| **平成２６年１２月３日** |

精神障害者部会報告

２月４日に予定していたが、数箇所が参加できず、３月４日に延期。

参加機関から最近の状況、話題などを出し合い、情報交換を行なった。

○年末年始、特に高齢で１人暮らしの方への支援について情報交換。地域の事業所は、緊急連絡のための携帯を持つなどして対応したり、臨時開所日を設けるなどで対応。

○教育のなかに精神保健についての情報や知識を取り入れて、早期発見、治療や啓発に繋げられたら（前回全体会でも報告）、という件について

・１０月２９日の運営委員会で話し合い、「精神に特化した働きかけを行なうことは協議会としてはおかしい」との意見があった旨報告。

・「天理こころの会」が市に出した26年度の要望に対して、「できることから始めていきたい」と回答があったため、まずはこころの会が直接教育委員会などと話を進めてみることになる。

○せせらぎ会（社会福祉課と保健センターが月２回行なうグループ活動、主に事業所などに通うのはまだ大変な人の行き場所として機能、登録　人）

１０月１４日ボーリング大会、１０月２２日芋ほり、１１月１１日、１１月２５日天理市内を散策、１２月２４日は桑サロン（天理こころの会のサロン）を利用してクリスマス会を開催

* **就労支援部会**

**○部会**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **１１月２１日** | **１２月１５日** | **１月２６日** | **２月２３日** |
| **てんりクラブ** | **平成２７年３月１日** |

平成27年3月

**天理市自立支援協議会　全体会**

**～就労支援部会報告～**

なら東和障害者就業・生活支援センターたいよう

村上　仁

部会の動きについて

『　販　売　』

《日程について》

第6回わくわくショップ

開催日　　平成27年10月25日

開催場所　てんだりー＆駅前広場

雨天の場合は駅前でのステージは中止。販売のみ、てんだりー＆駅前で行う。

台風など警報が出た場合はすべて中止。

《販売（時間帯・方法）》

《ボランティア（人数・配置）》

《　評　価・効　果　》

当事者の参加者数（人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年9/14 | 26年10/25 |
| あおぞら | 2 |  |  |  |  | 2 |
| あゆみ |  |  | 4 | 5 | 4 | 4 |
| こころ |  |  |  | 3 |  | 3 |
| みのり |  |  |  |  | 2 | 1 |
| ふきのとう |  | 4 | 8＋5 | 5＋6 |  | 8＋3 |
| だるま | 2 | 3 | 3 | 4 |  | 8 |
| こもれび | 0 | 0 | 3 | 6 |  | 0 |
| まめ | 5 | 5 | 5 | 5 |  | 5 |

売　上

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年9/14 | 26年10/25 |
| あおぞら |  |  |  |  |  | 4,000 |
| あゆみ |  |  |  | 10,000 |  | 22,000 |
| こころ |  |  |  | 25,600 |  | 13,600 |
| みのり |  |  |  |  | 16,700 | 12,400 |
| ふきのとう |  | 21,140 | 30,710 | 18,020 |  | 39,820 |
| だるま | 18,020 | 20,090 | 39,250 | 12,030 |  | 52,380 |
| こもれび | 1,860 | 2,300 | 8,320 | 7,105 |  | 5,340 |
| まめ |  |  |  |  |  | 5,000 |

・評価について

　○売上　食べ物は良く売れる。雨天等の天候に左右される。

授産品以外の食べ物が良く売れた。2ヵ所に増やしたので前年より上がった。

食べ物のほうが良く売れる。たくさんの人がきてよかった。回を重ねてきて「あのパンだね。」と言ってくれる人もいた。前回雨のためダメだったが、今回は売上があった。こういった機会しか売上を出すことができないのでいい。

　○当事者　楽しかった。毎年楽しみにしている。当事者は長時間の参加はしんどい。いったん参加すると楽しんでいるが、参加するまではどうしようか悩んでいた。

○紙芝居　良かった。紙芝居で止まるということが難しかった。紙芝居のロッキーは呼び込みを上手にしてくれた。本部の行事の都合で通っているので立ち止まってもらえなかった。

　○ステージ　音響はそよかぜの谷氏の協力で、充実していた。ステージ前の椅子の配置を次回は、食事ができるスペースも検討したほうが良い。

　　　ステージの参加者数を増やして、空き時間を無くす。アマチュアや保育所の出し物や他の事業所（放課後デイ等）にも声をかける。

　○ボランティア　今回は授業が無かったので少なかった。若い人が店頭にいると活気が出て良い。学生にステージで何かしてもらえれば。

　○その他

・わくわくショップは授産品を売る機会になっている。もっと色んな団体にも参加を呼び掛けたほうがいい。火器が大丈夫なら焼きそばをしたい。どこかのイベントとコラボ出来ないか。

　　　・人通りは、「駅前」120人と「てんだりー」300人と違う。

・看板ぶらさげてねり歩いたらどうか。

・もちつき通っていた人が並んであっという間になくなる。わくわくショップの主旨がわからず、おもちだけ食べていく。

　　　・店舗数がもっと増えるといい。平成22年に事業所ごとに授産品を限定して売り出したが、結果はあまり良くなかった。授産品だけでは集客が難しいので、新しい商品を試したり、事前の準備で火を使わず提供できるものを販売しても良いのでは。（スーパー等で買ったものをそのまま売るのは×。）

　　　・事前の周知がされているのか。小学校等へチラシをもっとまいたほうが良かった。毎回同じ時期にするとリピーターが増えているようである。

　　　・当日のイベントについて、何をしているのか、何の目的でしているのか分からないという声があった。看板をわかりやすく掲示できなかった。

・全体を通じてみると、売上と当事者の参加者数は増えている。

・天理市外でいろいろなイベントを重なったためメンバーが集まりにくかった。

・駅前　ステージ、音楽、回を重ねるたびにイベントしてる感じになってきているように思った。

・周知を徹底してイベントがあることがわかって見にきてくれるようにしたら。

・空席が目立つ中でかえって座りにくい。

・授産品を中心にしてきたが、パン、クッキー等似たようなものになるので、たこ焼きとかでもどうか。

今回は、のど自慢大会含め2回の開催としたので、売上や参加人数は上昇した。全体的に回数を重ねることで、いつも来場してくださる客数も増えてきているのではないか。この機会に施設の授産活動自体のアピール、もちろん商品の販売促進に繋がってきている。（その雰囲気づくりはできているのではないか。）イベントを作り上げている感じが徐々に参加者や開催者側も感じてきている。しかし、まだまだ客数や売上が急激に伸びているわけではない。アピール不足や広い駅前会場をあまり活用できていないことも課題である。もっと活気あるイベントにしていくためには、今後も、販売方法やPRの方法を再検討して次回のわくわくショップに繋げていく必要がある。

『　パンフレット　』

日中活動系の福祉事業所のデータをHPに掲載しているが、各福祉事業所のデータを再点検し、4月現在で最新データとする。新規事業所の確認や、新規事業開始などの再度確認項目について事業所に記入の依頼を行いたい。

『　余　暇　』

「第6回　てんりくらぶ」開催

日時：2015年3月1日（日）10時～12時

場所：天理市文化センター4階